

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア ~フルブライターからのメッセージ~』

2014年4月10日(木)

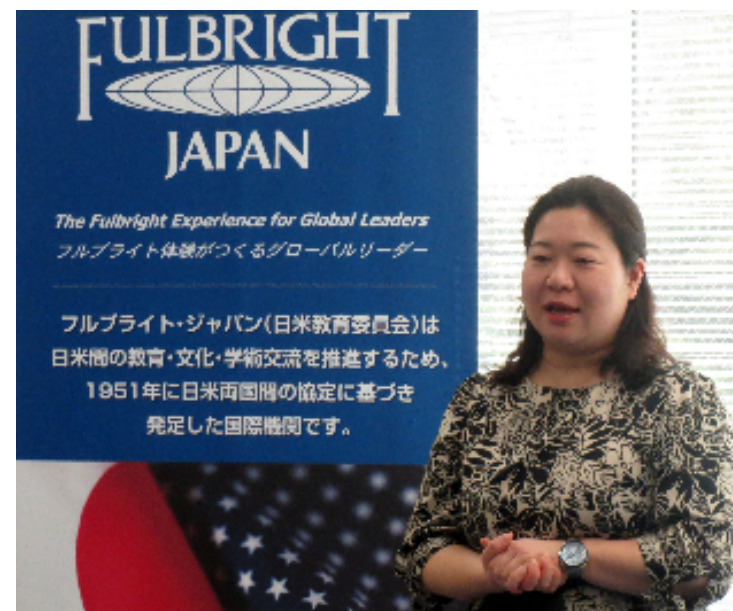
7:30 - 8:30

<ゲスト・スピーカー>

和田 照子 氏

2002年 大学院留学プログラム

(留学先: ジョージタウン大学ローセンター)



日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

先日、朝活第五弾として2002年に留学された和田照子氏をお招きいたしました。

和田氏は、現在(社)日本経済団体連合会にて経済基盤本部の主幹として働く傍ら、ボランティアでガールガイド・ガールスカウト世界連盟(本部:イギリス)の理事も努めていらっしゃいます。

まず何よりも伝えたいのは、要約するのが難しいほど良きアドバイスと、為になるお話を伺うことができました。ご多忙のところ、早朝より貴重なお時間をさいていただきました和田氏に、心よりお礼申し上げます。

#### <留学のきっかけ>

高校生時代に阿川尚之氏の「アメリカン・ロイヤーの誕生」という本を読まれ、日本人がアメリカで弁護士になって活躍できる、という事実に刺激を受けたそうです。皆さんも最近感動した本や映画などありませんか。

ふとした出来事が大きなきっかけとなり、留学を実現させるまでの爆発的な加速力を生みました。

小さい頃より漠然と留学への想いはあれど、

この想いが確かな形へと変わっていったのはこの頃だったようです。

そして、大学の時に交換留学の制度を利用して米国イリノイ州にて勉強されました。



日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)

朝活 第五弾

『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

## <留学の準備>

留学の準備として何よりも重要だったことは、タイム・マネジメントと奨学金を得ることだったそうです。

普段の学業や仕事に加えて、留学準備を行うことは容易ではありませんが、

自分に合ったタイム・マネジメントのスタイルを見極め、実行に移し、着実に前へと歩みを進めることが大事です。

留学に限らず、仕事とガールスカウトなどのボランティア活動の両立でもタイム・マネジメントは大切な要素です。

また、法科大学院(ロースクール)は学費が非常に高く、なかなか貯金だけでは賄えません。

奨学金に応募し獲得するのは容易なことではありませんが、そのための準備も計画的に進める必要があります。

次に興味深かったのは、留学先の選び方です。

皆さん、気が付けばランキングをご覧になってはいませんか。

今、留学を考えていらっしゃる方は、地域の特徴も調べてみてください。

和田氏は、経団連での仕事の特性も踏まえ、ワシントンDCという立法プロセスに近い所で

学びたいという想いのみならず、その地域の利点も考慮されたそうです。

なぜなら、DCでは立法に携わる方や連邦政府で働かれている方々が教壇に立つことが多くあるからです。

ジョージタウンでは、IMF(国際通貨基金)のリーガル・カンセルから教わる機会があり、その先生とのご縁が、

LL.M修了後の1年間、IMFで途上国の立法支援に関するインターンをする機会に繋がったそうです。

それぞれの地域では、それぞれ地域毎の開かれた可能性に溢れています。

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

<フルブライト奨学生としての留學生活および得たこと>

二度目の留學で、フルブライト奨学生として、ワシントンDCのジョージタウン大学ローセンターで学び、LLM(法学修士)を取得されました。

ロースクールでは一年でLLMが取得できます。逆に言うと、授業をとるチャンスは1年しかない、ということです。

学期は、前期・後期とわかれており、前期のうちになるべく多くの単位を取られたそうですが、

登録で気を付けなければいけないのは、授業それぞれの“prerequisite/必須条件”です。

例えば「上級コース」を取るには「初級」から始めなければいけません。

なので、年間を通して取りたい授業・取るべき授業を事前に十分考慮した上で計画的に登録する必要があります。

和田氏は、スケジュールを組む時に授業と授業の間に時間が空くようにしたそうです。

なぜなら、復習も大事だけれども、それ以上に予習は欠かせなかったからです。

質問をするにしても内容をしっかり把握していなければ良い質問は生まれません。

教授は、質問内容から、その学生がどの程度授業内容を理解しているのかわかります。

### <フルブライト奨学生としての留學生活および得たこと>

質問することは、自分の考えを伝えることでもあります。

日本人は、文法や発音の間違いを恐れてなかなか発言できないと言われます。

しかし、発信しなければ何も始まりません。大切なことは、文法が多少間違っているとしても、発音がネイティブのようでもなくとも、伝えるべき「内容」をしっかり考えて、伝える努力をすることです。ついつい忘れがちですが、日本人もたまに日本語を間違えることがあるのと同様に、アメリカ人も英語を間違えることがあります。気持ちで引けを取ってはいけません。場数を踏めば踏むほど慣れますし、相手に伝える力もつきます。

復習・予習は、数十ページではありません。数百ページになることもあります。膨大な量の資料を読みこまなければいけません。けれども、徐々にスキミング力がつき、効率性も高まります。「このissue(論点)について、case(判例)Aではこういう考え方が示されているが、別のcase Bでは、別の考え方が示されている。その違いは〇〇にある。」といった具合に、ポイントを掴めるようになります。

また、ここでもやはり、タイム・マネジメントが大事になります。

和田氏自身は、短時間集中タイプなので、切り替えが気分転換になるとのことです。

一つの事を長時間かけて勉強するのではなく、時間を区切って取り組まれたそうです。

取り組み方に正解はないため、皆さんご自分に最も合うスタイルを見つけてみてください。

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

### <フルブライトの影響力(仕事において)>

経団連のお仕事では、フルブライト奨学生だったことがきっかけとなって役立つことも多いそうです。仕事の関係で多くの方とお会いする機会があり、その方々もフルブライト奨学生である場合もあり、ご自身の顔と名前を覚えていただけるようです。業界問わず、自分のことを覚えて頂くことが全ての始まりで、とても重要なことです。

現在は、毎日仕事で英語を使うわけではないものの、プレゼン資料の作成にあたって必要となる資料が英語であっても問題なく読みこなせ、異なった分野の法であっても留学中に学んだ知識を手がかりに、取り組むことができるようです。また海外の弁護士とも気軽にメールや電話で情報交換をすることで、タイムリーに日本企業に役に立つ情報が入手できることもあります。

また、留学中に会った人達とも仕事やプライベートで繋がっており、その方々を通してのご紹介などのお陰で、仕事がスムーズに進むこともあるとのことでした。

更には、プロフェッショナルスクールに留学したフルブライト同窓生の集まりもあるので、こちらに参加することで、弁護士や企業で活躍する方と出会う機会も増えたりするようです。このような横の繋がり・ネットワークを作れるのは、フルブライトならではのようです。

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

<フルブライトの影響力(ガールスカウトにおいて)>

米国では、フルブライトの認知度は日本以上に高く、「フルブライター\*」という事実が「信頼」に繋がっていったように感じられたようです。

特にそう思われたのは、ガールスカウトの世界連盟の理事選挙に出馬した時だそうです。

応援してくださっていた方が、

「照子はフルブライターだったのね！何でもっと早く教えてくれなかったの！」と言って、多くの方に紹介して下さったそうです。

フルブライターであることが、より多くの人に自分のことを知って頂けるきっかけになったそうです。

\*フルブライターとは、フルブライト奨学生を指します。

日米教育委員会(フルブライト・ジャパン)  
朝活 第五弾  
『留学とキャリア～フルブライターからのメッセージ～』

朝活終了後、時間に余裕がありましたらゲスト・スピーカーと直接お話することが出来ます。  
このような機会を利用して留学とキャリアについて考えてみてはいかがでしょうか。

次回の朝活の予定は、決定次第、ブログ(<http://fj-news.net/>) やウェブサイト  
(<http://www.fulbright.jp/study/event/asakatsu.html>) でご案内します。

どうぞお楽しみにお待ちください。